



熊本地震から10年



熊本地震から10年今のオモイ。

本場の復興とは

地獄温泉 青風荘 代表取締役 河津 誠さん

この10年で全国からさまざまな支援があり、インフラを中心に村の環境はとて多くなってきたと思います。震災後、私はグループ補助金を申請し、何とか震災前のように経営を立て直そうと奮闘しましたが、新型コロナウィルスの影響も大きく、「完全な復興まではほど遠い」というのが現在の正直な感想です。

観光客を増やすことももちろん大切ですが、村民一人一人が幸せであることが



本場の復興だと思えます。私は、人や資源が多くなるから、今も南阿蘇は人が集まる場所として愛され続けているのだと自負しています。そして、これまでみんなで大切に守ってきたものを手放さないことも一つの復興だと考えます。村にとって、今と違うことが復興なのか、考え直してみませんか。

千年先へ記憶のバトンを繋ぐ

熊本地震 震災ミュージアムK10K11 統括ディレクター 久保 亮さん



村は復興の道を歩んできましたが、今後も阿蘇の自然と共に生き続けるためには、「あの経験が無駄にしない」という決意で過去の教訓を活かし、新たな備えを築く必要があります。私自身が特に学んだのは、平時からの近隣との繋がりが、すなわち「コミュニティの力」を維持し、手の届く距離の日常を充実させておくことが、命を守る力になるということです。

また、次なる災害に備え、経験を伝えて後悔する人を減らしたいと考えています。そのために不可欠なのが、世代を超えた伝承です。地震の周期は千年単位とされ、個人の一生では記憶を繋げません。だからこそ、私たちが次世代に記憶を伝える「伝え手」となり、熊本地震震災ミュージアムK10K11を通じてその使命を果たしていきます。

寂しいけれど前向きに

下宿「新栄荘」3代目大家 竹原伊都子さん



10年間をまとめると、「寂しい」の一言に尽きます。800人の東海大学の学生がいて、下宿の学生と一緒に過ごすのが当たり前だったあの日々を思い出すと、未だに涙が溢れます。下宿があった黒川地区は被害が大きく、学生以外の住民も減り続けており、子どもを持つ世帯も少ないので、寂しさを感じます。

そんな中でもアイデアアーツカレッジ阿蘇が開校されると聞いたときは大変嬉し

熊本地震から学ぶ災害対策支援のあり方

公益社団法人 日本不動産鑑定士協会連合会 理事 白藤 公徳 公益社団法人 熊本県不動産鑑定士協会 会長 千原 津留伴 一さん



発災当初、村と縁のあった協会が住家被害認定調査を支援に当たり、約5か月後には九州各県の不動産鑑定士が加わって被災民の調査を行いました。村民の皆さまの立会いのもと、丁寧に説明をしながら進め、罹災証明書の早期交付に貢献できたことは、私にとりて貴重な経験です。

被災者の願いは迅速な生活再建であり、そのためには適正な住家被害認定と罹災証明書の早期交付が必要

南阿蘇村の被災状況

■前震

平成28年4月14日午後9時26分
マグニチュード6.5
最大震度7(村内では河陽地区で震度5弱)

■本震

平成28年4月16日午前1時25分
マグニチュード7.3
最大震度7(村内では河陽地区で震度6強)

■人的被害

・死亡者……31名(関連死15名含む)
・重傷者……31名
・軽傷者……120名

■建物被害

・全壊……699世帯
・半壊……989世帯
・一部損壊……1,173世帯 ※2021年1月時点

■その他

・ライフライン: 村内全域で停電発生、最大3,761世帯約80%で断水発生
・交通インフラ: JR豊肥本線・南阿蘇鉄道の不通
・主要道路(国道57号・阿蘇大橋、長陽大橋、依山トンネル等)の寸断
・農業被害: 農地の地割れ、農業用水路の被災、人手不足の悪化
・観光被害: アフセス悪化、施設被災、風評による観光客激減
・その他: 山腹崩壊およびその後の豪雨による土砂崩れ多数

■避難所

最大避難者数 2,688人(4月16日)

■村十景義援金

62,432,976円

■全国自治体・関係機関からの派遣職員

延べ86,846人

■全国からのボランティア

延べ22,375人 ※2016年10月時点の南阿蘇村社会福祉協議会調べ
※村の人口: 1,652人、世帯数: 4,744世帯(2016年2月末時点)
※平成28年6月19日から6月25日に発生した豪雨被害を含む

熊本地震から10年を振り返って

あの熊本地震から10年の歳月が流れました。歩みを止めることなく、今日まで復興を支えてくださった村民の皆さまの不屈の精神に、心より敬意と感謝を申し上げます。共に支え合い、力を合わせてこの困難を乗り越えてこられたことを、大きな誇りに感じています。

振り返りますと、震災直後は村内のインフラが甚大な被害を受け、住宅や道路の復旧には多くの時間と労力を要しました。また、観光業の中断や経済の停滞など、幾多の苦難にも直面しました。しかし、村民の皆さまは決して希望を捨てることなく、手を取り合って進んでこられました。そして今、私たちは「創造的復興」を経て、新阿蘇大橋や南阿蘇鉄道といった強固な基盤を取り戻しました。これからは、この基盤の上に「持続可能な南阿蘇村」を築いていく、新たな挑戦のステージです。

今後の目標は、「村を強く、明るく、前へ」。私たちが震災の経験から改めてその大切さを学んだのが、「自助・共助・公助」の精神です。自らの命と生活を守る「自助」、困難な時にこそ光る地域の絆「共助」、そして皆様の歩みを全力で後押しする村の「公助」。これらをより深く結びつけ、災害に強く、助け合いの心があふれる地域社会を築いてまいります。

そして、その未来を担うのは「人」です。「次世代の人材育成」を最優先事項とし、若者が夢を描き、子育て世代が安心して暮らせる環境を整え、多様な挑戦を村全体で後押しします。若者が地域に根付き活躍することは、高齢者の人々の安心や、地域コミュニティの再構築にも大きく寄与するものです。

私たちの視線は、常に未来へと向けられています。この美しい南阿蘇村を、次なる輝きへと導いていく決意です。これからも村民の皆さまと共に、より良い未来を築くため、力強く前へ進み続けてまいります。

南阿蘇村長 太田 吉浩



南阿蘇村役場

〒869-1404 熊本県阿蘇郡南阿蘇村大字河陽1705番地1 TEL.0967(67)1111 FAX.0967(67)2073
URL <https://www.vill.minamiaso.lg.jp/> E-mail skikaku@vill.minamiaso.lg.jp



村HP